

決算チェックシート — 東洋エンジニアリング（6330）

2027年3月期 第1四半期決算（2026年8月7日ごろ発表予定）／ご自身で書き込みながらお使いください

✓ チェック項目	会社計画・前期実績	読み解きのヒント	自分のメモ
☐ 1 売上総利益率 短信「完成工事高／完成工事総利益」 今期計画の生命線	通期計画 14.7% 前期実績 3.5% 売上総利益 280億円／1,900億円	EPCは案件の進捗に応じて収益を認識するため、四半期で利益は均等に出ません。 「4分の1に届いたか」で判断しないこと。 会社コメントと通期計画の据置／修正を併読。	
☐ 2 ブラジル案件の続報 短信の注記・適時開示 最大の下振れリスク	2025年7月 仲裁を申立て 2025年10月～ 対価の支払停止 前期に回収可能性を保守的に評価済み	確認したいのは3点 — ①追加の工事損失引当 ②仲裁手続きの進捗 ③2026年2月に判明したサブコンからの提訴の続報。 「開示がない＝進展なし」とは限りません。	
☐ 3 持分法投資利益 損益計算書「営業外収益」 FPSO合併会社 OFS の貢献	通期 営業外損益 45億円 前期 持分法投資利益 83.9億円 前期は営業赤字を押し戻す役割	会社は「水準感は維持方向の見立てだが、若干堅めに数字を見込んでいる」と説明。 計画を上回れば利益の下支え要因に。 本業の回復と分けて評価するのが実務的。	
☐ 4 受注高・受注残高 短信「補足情報：受注および売上の状況」 来期以降の売上の裏付け	今期 連結受注目標 2,000億円 前期末 受注残高（持分法含む） 5,024億円 連結ベースでは2,693億円	会社はFPSO関連について今期は見積り・FEEDに徹し、年度内の新規受注はないと想定。 受注減＝悪材料とは限らない点に注意。 肥料（インド・アフリカ）の動向にも注目。	
☐ 5 財務指標の回復ペース 貸借対照表・CF計算書 復配の確度を左右する土台	自己資本比率 16.7% → 目標 25% 有利子負債 613億円 前期 営業CF +93億円 DEレシオ 1.41倍	損益が赤字でも資金繰りは別物です。営業CFがプラスを維持できているかを必ず確認。 中計はCFの50%を財務基盤強化に配分する方針。 改善が続けば期末25円配当の確度は高まる。	

まず最初に見るべき2行

- ☐ 通期業績予想の据え置き／修正の有無 … 修正があれば、その方向と理由が最優先の情報になります
配当予想（期末25円）の変更の有無 … 高配当の観点では、ここが実質的な結論になります

出所：東洋エンジニアリング 2026年3月期 決算短信・決算概要・各説明会 質疑応答要旨をもとに作成。数値は執筆時点で公表されているもの。
※本シートは情報整理を目的としたものであり、特定銘柄の売買を推奨するものではありません。最終的な判断はご自身の責任でお願いいたします。